

# 真美ヶ丘池を防災と憩いの場に

## 雑草・雑木の撤去、川床さらえが進行中！



＜改修工事の進む真美ヶ丘池＞

昨年12月6日高田土木事務所に申し入れ



広陵民報号外 (2020・3・14)

発行：日本共産党広陵支部

連絡先 やつお春雄 ☎ 60-0972

日本共産党は政策を発表しました

馬見北3丁目にある真美ヶ丘池は、真美ヶ丘団地開発当初から佐味田川の遊水池として役割を果たしてきており、現在もその役割に変更はありません。気候変動が激しく一時水（いっときみず）の心配もある中では大切な池です。野鳥が飛来する池として地元の方にも親しまれ、存続運動も取り組まれてきました。ところが、近年雑草・雑木が生い茂った上に、県の管理が十分でなかった時期もあり、綿被害が発生するようになり、周辺住民の皆さんから苦情が寄せられるようになって来ました。従来年2回の草刈りが予算縮小で年1回になったことも大きく影響を及ぼしています。

昨年12月6日に今井県議・広陵町議団（八尾・山田）の3名でこの問題について、高田土木事務所を訪問し申し入れを行い、「今後住民の皆さんと十分協議して行きたい」との回答を得ています。

さらに広陵町議会においても一般質問で取り上げ、次のような町長答弁がありました。

昨年12月議会、八尾春雄議員の一般質問に対する町長答弁（紹介）

「県が治水施設として整備した佐味田川調整池についてですが、佐味田川調整池は、県とまちづくり連携協定を締結した竹取公園周辺地区の計画エリアに含まれており、今年4月に策定した基本構想では、約1ヘクタールの池底を多目的広場として活用するとともに、竹取公園や馬見丘陵公園のイベント時には臨時の駐車場に使用する構想を位置づけています。遊水機能はどのように継続するのかとの問いにつきましては、治水施設ですので現在の貯水容量の確保は必須事項となります。今後、基本計画の策定に向けた検討において、池底に繁茂した樹木の撤去や、池西側の緩やかな斜面を利用した池底までの昇降坂路の設置など整備方法や整備主体について、県と協議を行ってまいります。」